

すてきな大分を見つけ、伝えよう！

2025.11.16

9月『私の観た大分美術の魅力』講話会 ご報告

朝晩はだいぶ冷え込んでまいりました。お変わりはございませんか。今回は去る9月開催の講話会「私の観た大分美術の魅力」をご報告いたします。

講師の菅章先生は、美術史家、美術評論家として現在ご活躍中ですが大分市美術館館長を永年務められ、その豊富な体験や知見をもとに、この度“大分美術”という視点から大分県の古代から現代までの美術の流れを体系的に解説くださいました。

聴かせていただく者にとりまして何か最高級のコース料理をいただいたような幸福感を覚え、大分県に産まれた芸術家のその素晴らしい改めて驚嘆した時間でもありました。

1. 大分美術の歴史と特徴

大分県の美術史として大きくみると①古代から中世②中世から近世③近世から現代というように三つの区分で捉えることができます。古代から中世は、磨崖仏や宇佐神宮の神仏習合に代表され、独特の仏教美術が花咲かせました。また、中世から近世に至っては、鎌倉時代に始まる大友氏の影響と大友宗麟の南蛮貿易で栄えた時代がありました。

B V NGO（豊後）が地図に表記され西洋に紹介されるほど知名度の高

い地域になり西洋の先進医療技術や演劇、音楽などが伝わりました。ただ残念なことに大友氏改易があり、豊後は小藩分立の影響を受けその遺構は殆ど残されていません。しかし近世の江戸時代中期に入りそれぞれの小藩が地域の独自性を育て、儒学をはじめ絵画、彫刻、工芸に至る迄目覚ましい発展をみせたのでした。大分美術を全般的に見て感じられる特徴は、その“独自性”と“進取の気風”に溢れていることが挙げられます。

2. 豊後南画の祖 田能村竹田（1777-1835）

南画は、中国の南宗画を元に日本で発展した絵画様式で文人画とも呼ばれます。田能村竹田は、代表的な画家で、幅広い識見と人間的魅力を持ち頼山陽や谷文晁など著名な文人や画家と交流しています。多くの優れた作品と後継者を残し、豊後南画の祖といわれます。

《代表作》 「暗香疎影図」（1831）、「桃花流水図」（1832） 共に国指定重要文化財
《代表的な弟子》帆足杏雨（きょうう） 高橋草坪（そうへい）、田能村直入（ちょくにゅう）等
とくに田能村直入は、京都・大阪で活躍しました。京都府画学校設立に尽力し南画の復興と後進の育成に努め南画から近代への架け橋のような役割を果たしました。



国宝 白柱磨崖仏



大友宗麟公像
(大分駅前)



「暗香疎影図」

(田能村竹田/大分市美術館蔵)

3. 近代日本画と福田平八郎・高山辰雄

近代日本画は、明治になってつくられました。フェノロサ(1853-1908)などを中心に日本の良さを見直そうとする動きが出てきます。大分の近代日本画は、東京美術学校で学び大分中学で教師となった松本古

村や京都市立絵画専門学校で学んだ高倉觀崖、牧皎堂らの先駆的画家たちにより先鞭がつけられました。その後福田平八郎や高山辰雄など我が国を代表する日本画家が誕生しました。

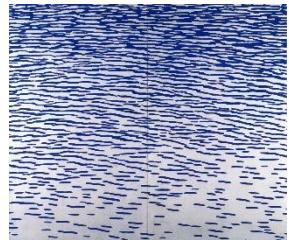
(1)福田平八郎(1892-1974)

大分市王子中町に生まれました。福田平八郎は、自宅に下宿していた大分師範学校図画教師の首藤積氏に絵の才能を見出され、首藤の薦めで京都の絵画専門学校に進み絵の道に入りました。

27歳の時「雪」が帝展で初入選し、以降次々と新作を発表し日本画の近代化を推進しました。

《代表作》 「鯉」「漣」(さざなみ)「雨」「紅葉と虹」「竹」等 多数

《特徴》 素材に花、竹、魚、野菜、水等身近なものを選び誰が見てもわかります。「漣」の絵は、一見とても絵になるようなものでない水面をその特徴をとらえ、その美しさを表現しています。水と光が織りなす瞬時の光景を見事に表現しています。



「漣」1932年 第13回帝展
(福田平八郎／大阪中之島美術館蔵)

(2)高山辰雄 (1912-2007)

福田より20歳年下で、生家は、平八郎の家と2,3百m程しか離れていませんでした。幼い頃より文房具屋をやっていた平八郎の父が平八郎の絵をよく自慢して見せてくれたといわれます。また、高山家の床の間には掛け軸があり、辰雄はそれをみて水墨画にも親しんでいたといわれます。

《代表作》 「湯泉」「少女」「雲煙に飛翔」

《特徴》 小さいころから星をよく見ていたといわれ、作品の中に宇宙を感じさせてくれます。また人物を優しい眼差しと深い愛情をもつて描いており味わい深いものがあります。



「雲煙に飛翔」2001年 第3回日月星辰展
(高山辰雄／大分市美術館蔵)

晩年の代表作の一つ 連れ添う鳳凰が描かれている

4. 洋画



藤雅三(1853-1916) 白杵市出身 最初は南画家帆足杏雨の弟子として出発します。

その後洋画を学ぶために工部美術学校に入学し、フォンタネージの指導を受けました。

その後フランスに渡りラファエル・コランに師事しました。そこで法律を学ぶために来ていた黒田清輝に出会い、黒田に洋画を目指すよう薦め、洋画家黒田清輝の誕生につな

がったのでした。

《他の画家》 片多徳郎、権藤種男、佐藤敬、宇治山哲平、糸園和三郎 等



5. 彫刻 朝倉文夫 (1883-1968)

朝地町に生れる。東洋のロダンと呼ばれわが国の塑像彫刻の基礎を築いた巨匠です。

《代表作》 「墓守」(最高賞二等賞) 「滝廉太郎像」「三相」「福沢諭吉胸像」等

『墓守』は、朝倉文夫の彫刻家としての転機を象徴する作品であり、モデルを生活の中から掬いあげて捉えるその姿勢は、近代日本彫刻における写実主義の新たな地平を開いたものです。

「墓守」1910年 第4回文展
(朝倉文夫/朝倉文夫彫塑館)

6. 工芸 生野祥雲斎 (1904-1974)



「乱菊」(生野祥雲斎)

別府に生れる。佐藤竹邑斎に師事。1943年新文展で入選する。1967年重要無形文化財竹芸保持者（人間国宝）に認定される。竹の可能性を引き出し用途よりも「造形」を第一に考えました。

《代表作》 「波」「乱菊」 竹という素材のしなやかさ、強さ、上品さを写生的に表現しました。



吉村益信

7. 現代美術

吉村益信(1932-2011)や風倉匠(1936-2007)が代表的存在です。これまでの既成の芸術の概念にとらわれない新しい芸術の領域を切り開きました。1960年「ネオ・ダダ」と呼ばれる反芸術グループを創り話題となりました。

8.まとめ

全国的にみても驚くほど多くの優れた芸術家が大分県には誕生しています。また各地域には個性的で優れたものが多く、そこには大分という土地が持つ自然環境や風土と密接につながっているといえます。

《素晴らしい大分美術・芸術が誕生した背景》

◎恵まれた大分の自然環境と風土

◎進取の気風 （西洋演劇や音楽を日本で初めて実演した土地である）

◎地方と中央(大分と東京、京都)をつなぐキーパーソンの存在

高倉観崖、松本古村、山下鉄之輔、権藤種男、荒木剛、磯崎新、風倉匠、岩田英二

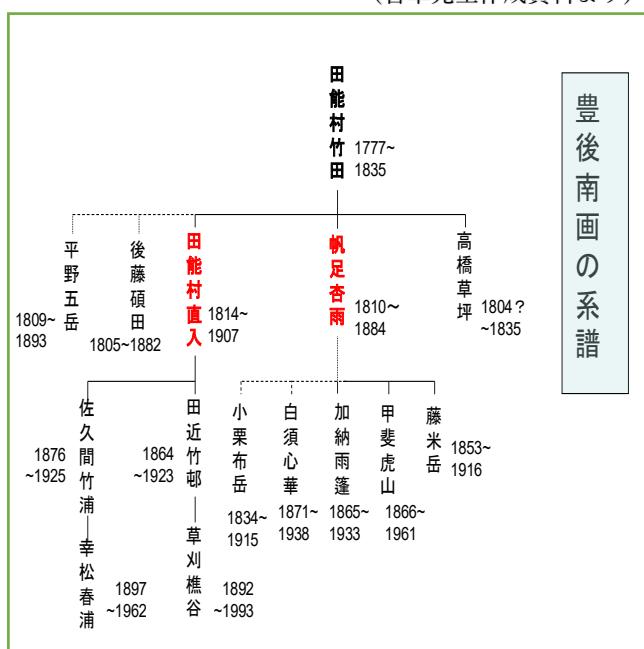
◎サロンの存在 富春館（帆足家）、キムラヤ（キムラヤ文化）

これらの要素が密接につながって大分に素晴らしい芸術、美術が誕生したと考えられます。

（文責 青井勝久）

添付資料

(菅章先生作成資料より)



菅章先生を囲んで

(2025/9/13)